

たてはく

令和4年度 春の立山曼荼羅特別公開展

類似した!?! 立山曼荼羅

会期：令和4年4月19日(火)～6月12日(日)

現在確認されている「立山曼荼羅」約50点からテーマを設けて紹介している特別公開展。
今年度の春は、類似した2点の立山曼荼羅に注目しています！

「立山曼荼羅」宝泉坊本は、芦峯寺宿坊家の1軒であった宝泉坊に伝来する立山曼荼羅で、軸裏の墨書から、三河国西尾藩の第4代藩主であった松平乗全のりやすが立山曼荼羅を模写して宝泉坊へ寄付したものとわかります。そして、この宝泉坊本と構図が類似しているのが、三河国岡崎藩第5代藩主・本多忠民ただとが芦峯寺の吉祥坊へ寄進した「立山曼荼羅」吉祥坊本です。

令和4年度の春の立山曼荼羅特別公開展では、類似するこの2点の「立山曼荼羅」を紹介します。どこが類似しているのかぜひ、見比べて探してみてください！

(細木ひとみ)



宝泉坊本(左)と吉祥坊本(右)の玉殿窟の場面

展示資料：

- 「立山曼荼羅」宝泉坊本(個人蔵)
- 「立山曼荼羅」吉祥坊本
(当館蔵、国指定重要有形民俗文化財)

会場 展示館2階 常設展示室(一部)

開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)

観覧料 常設展示観覧料 一般300円(団体240円)

※大学生以下等、70歳以上は無料

会期中の休館日 月曜日(ただし5月2日、5月9日は開館)、5月11日(水)

※4月29日(金・祝)～5月9日(金)は休まず開館

目次

令和4年度 春の立山曼荼羅特別公開展「類似した!?! 立山曼荼羅」	1
令和4年度 特別企画展のご案内	2
前期特別企画展 いざ、立山へ！ —鉄道にみる立山観光—	
後期特別企画展 立山のお地蔵さま —苦しみに寄りそう—	
布橋灌頂会開催記念公開展 布橋を渡る —女性たちの救いと祈り—	
学芸課発 立博雑学	3
第4回 燭尊像の姿	
たてはく出前講座&団体見学 受付中！	3
令和4年度 催し案内	4
「たてはく友の会」令和4年度会員募集中！	4
編集後記	4





令和4年度 特別企画展のご案内

前期特別企画展

いざ、立山へ！—鉄道にみる立山観光—

今日では観光の山として知られる立山、そこへ人々を誘う立山黒部アルペンルートの最高地点、室堂の標高は2,450mです。このような高地まで交通機関が整備されているのは国内では他に例がありません。アルペンルートの開発は、昭和27年(1952)に示された富山県総合開発計画において、立山山岳地域が県内の重要な観光資源と位置付けられ本格化し、同年、観光交通体系の整備を目的に、立山開発鉄道が創立されました。

一方、県内の鉄道の歴史は、明治30年(1897)、私設の中越鉄道の黒田一福野間開通に始まります。32年には、官設の北陸鉄道が富山まで開通し、大正期になるとほぼ現在の原型となる地域鉄道網ができあがり、昭和18年(1943)に県内の地方鉄道と軌道を統合した富山地方鉄道が誕生しています。また、鉄道の発展は大正期や戦後の大衆登山ブームを後押ししました。

アルペンルートの全線開通は、昭和46年(1971)ですが、これに向け、富山地方鉄道は大阪と名古屋の二大都市圏からの誘客を図るべく国鉄へ働きかけ、45年に立山駅

への直通列車運転が実現します。同年、名古屋鉄道も高山本線直通列車を延長し立山駅に乗り入れました。

雄大で特徴的な景観が今も人々を惹きつける立山は、明治末期以降、信仰の山から登山の山、観光の山へと姿を変えてきました。本展では、そこへ足を運ぶ人々にとって無くてはならない交通機関に焦点をあて、戦後を中心にその歴史と変遷をたどります。(鈴木博喬)



会期：7月16日(土)～9月4日(日)

【担当学芸員展示解説会】7月16日(土)、8月13日(土)・27日(土) いずれも14:00～

後期特別企画展

立山のお地蔵さま—苦しみに寄りそう—

平安中期以降、戦乱、飢餓が続く末法の世に、極楽往生の叶わぬ者は、死後地獄に堕ちるとされました。恐怖におののく人々は、地獄の苦しみを除き、閻魔さまと同体ともされるお地蔵さまを、篤く信仰していくようになりました。

山中に地獄ありと信じられた立山では、平安末期成立の『今昔物語集』に、亡者の身代わりとなって地獄の業火に焼かれるお地蔵さまが登場します。立山は当時、地蔵霊場として広く知られ、山中にはお地蔵さまの石像が複数祀られています。その後、立山は阿弥陀信仰の山とされていきますが、江戸時代の立山曼荼羅の多くには、お地蔵さまが描かれました。賽の河原で早逝した子どもたちに寄りそう姿や、阿弥陀如来に従う二十五菩

薩の一尊となって亡者のもとに飛来する姿、さらには閻魔堂前に銅造坐像として鎮座し人々を見守る姿などです。立山信仰の中核が時代とともに変わりゆく中でも、地獄の救い主とされるお地蔵さまへの信仰は水脈のごとく続いていきます。

本企画展では、立山山中・山麓の実景とともに、時に人々の苦しみに身を捨ててまで寄りそう、お地蔵さまのすがた・かたちを紹介します。(石崎康弘)



会期：9月17日(土)～11月6日(日)

【担当学芸員展示解説会】9月17日(土)、10月10日(月・祝)、11月5日(土) いずれも14:00～

*展示・撤収作業のため、7月15日(金)、9月16日(金)は、臨時休館します。

布橋灌頂会開催記念公開展

「布橋を渡る—女性たちの救いと祈り—」

江戸時代、女性たちは死後、女性特有の出血によって大地や水の神などを穢した罪で立山山中の「血の池地獄」に堕ちると信じられていました。しかし、立山山中は女人禁制…。女性たちは、滅罪のための厳しい「禪定登山」をすることも許されていなかったのです。そんな女性たちを救うべく、芦峯寺集落では閻魔堂・布橋・嬬堂を舞台に女人救済の法会である「布橋灌頂会」を行い、多くの人々が参加、寄進したといわれています。

そこで、本年9月に「布橋灌頂会」が開催されるのにあわせて、芦峯寺で行われていた「布橋灌頂会」について紹介します。(細木ひとみ)



平成29年度の布橋灌頂会
(布橋灌頂会実行委員会提供)

会期：8月23日(火)～10月2日(日)

会場：展示館2階 常設展示室(一部)

【担当学芸員展示解説会】9月3日(土)・18日(日)・24日(土) いずれも14:00～





学芸課 発

立山博雑学



学芸課によるリレー形式のコラムです。立山や立博についての蘊蓄や魅力を、雑学としてお伝えします。

第4回 媯尊像の姿

芦峯寺では、古くから「おんば様」と呼ばれ親しまれる「媯尊」という女神が信仰されています。ウバソンやウバガミと呼ばれる、老女の姿をした神仏は全国に存在していますが、芦峯寺では媯という字を用いるので、本稿において、芦峯寺の「うば尊」を指して媯尊と表記します。

もとは山岳信仰に基づく山や水の神だったと考えられています。江戸時代には「立山大権現の母神」、万物生成の母として高天原から降り立った神といわれたり、奪衣婆とも習合したりしました。また「布橋灌頂会」で女性を救う存在でもあります。

かつては芦峯寺の媯堂に祀られており、本尊と脇侍の計69体の彫像が安置されていたと伝わっています。廃仏毀釈により、媯堂は破却され、媯尊像も多くが散逸しましたが、芦峯寺閻魔堂や立山博物館に計14体の木彫像が現存しています。また「立山曼荼羅」や護符にも媯尊の姿が描かれています。

多様な性格を持つ媯尊ですが、その像の姿形や大きさも実に様々です。そこで、彫像と絵画を合わせた計41例を、顔立ちや姿に注目して分類してみました。すると、①老婆形②般若形③菩薩形④僧形の4種類に分けられるのではないかと思います。以下に①～④それぞれの特徴を挙げていきます。

①老婆形【図1】は媯尊像の最も代表的な図像です。彫像の多くや曼荼羅や護符などに描かれた媯尊はこの姿をしています。一口に老婆といえど、個性豊かな顔立ちで、手の組み方や座り方もそれぞれです。片手を立膝の上に置いてもう一方の手を下ろすものや、下ろした手に何か握っているようなもの、曼荼羅や護符には、結跏趺坐して定印を結んでいるようなものなどがみられます。

②般若形【図2】の媯尊像は、1体しか該当しませんでした。般若面は一般的に鬼女であることを表しています。また、下ろした左手には布を握っています。このような特徴は、三途の川の辺で亡者の衣を剥ぐ鬼女・奪衣婆の性格が強く表われているのかもしれませんが。

③菩薩形【図3】の媯尊像は、今回2体が該当しました。

どちらも芦峯寺閻魔堂に祀られている小さな木彫像です。柔和な顔や白毫や瓔珞など、①②の像と明らかに違うことがわかります。2体とも手が欠損しています。どんなポーズをしていたのでしょうか。

最後に④僧形【図4】

は、2体が該当しました。こちらも閻魔堂に祀られている、大きめの2体です。他の媯尊像に比べて、乳房や頭髪の表現が無いまたは後補のように見え、白いお召し物の下には、法衣をまとっているのが確認できます。

③④のように、「うば」「母神」「奪衣婆」などといった媯尊の性格からやや逸れた姿の像があることがわかります。現在「おんば様」として祀られていても、もとは別の諸尊の像として造られたのかもしれませんが。このことは、当館の過去の研究においても指摘されています。

ところで、破却された媯堂に何が祀られていたのか、江戸時代の終わり頃の記録（『諸堂勤方等年中行事外数件第二号』）から知ることができます。ここに「本尊三体」「治国両尊」「地藏観音両大士」「脇立六十六体」と記載があることから、媯堂には媯尊像の他にも、菩薩像や「治国両尊」が安置されていたようです。③菩薩形④僧形の媯尊像と何か関係が見い出せるのでしょうか。今後の研究が楽しみです。（坂口 舞）



図1 ①老婆形の媯尊像



図2 ②般若形の媯尊像



図3 ③菩薩形の媯尊像



図4 ④僧形の媯尊像

たてはく 出前講座&団体見学 受付中!

オンラインも
対応!

立山博物館では、学芸員が県内各地の小・中・高等学校に伺い、立山の自然や歴史などを伝える「出前講座」を実施しています。講座の時間や内容、ねらいなどは担当の先生方と相談し、できるだけご要望にそった講座づくりを心がけます。小学校では立山登山の事前学習や総合的学習の時間に、高校では郷土史学習にも出前しています。

コロナ禍でもご利用いただきやすいよう、オンライン出前講座も開始しました。昨年度は小学校2校で実施し、遠足の事前学習や総合的な学習の時間の発表の場（右写真）として、当館と教室をリアルタイムでつなぎました。子どもたちの対話的で主体的な活動の場面を取り入れ、

好評を得ました。当館を実際に訪れ、実物を観る前後に、子どもたちの鑑賞体験を深める出前講座を、ぜひご利用下さい。



展示館では、コロナ対策として人数制限にご協力いただいたうえで、学芸員によるわかりやすい展示解説も行っています。今年度より当館HPに、学校団体様向けのページをアップしたので、ご利用をお考えの先生方はぜひ覗いてみて下さい。（石崎康弘）





今年も
楽しいイベントが
満載!!

観覧料

- 展示館
 - 常設展示 一般 300円
 - 企画展示 一般 200円 (70歳以上含む)
 - 大学生 100円
 - ◇大学生と70歳以上の方は常設展示のみ無料
- 遙望館 一般 100円
- まんだら遊苑 一般 400円
- ◆大学生以下及び準する方、各種手帳をお持ちの方は無料
- ◆20人以上団体料金あり
- ◆この他の施設は無料

特別企画展

前期特別企画展	いざ、立山へ!	7月16日(土)~9月4日(日)
後期特別企画展	立山のお地蔵さま	9月17日(土)~11月6日(日)

その他の展示

春の立山曼荼羅特別公開展	「類似した!?立山曼荼羅」	4月19日(火)~6月12日(日)
布橋灌頂会開催記念公開展	「布橋を渡る—女性たちの救いと祈り—」	8月23日(火)~10月2日(日)
冬の立山曼荼羅特別公開展	「描きかえられた!?立山曼荼羅」	12月13日(火)~令和5年2月26日(日)

各行事の詳細は
博物館まで
お問い合わせ
ください。

- ◆立博ぶらり探訪 (当館の施設を巡りながら立山の歴史と文化に触れる)
7月23日(土)、10月8日(土) 13:00~15:00 展示館、教算坊、閻魔堂、布橋ほか
各日定員15人 要事前申込 (応募者多数の場合は抽選) 参加無料
- ◆たてはく探検隊 (立山の自然、歴史、文化を親子で学べる) 7月30日(土)
展示館、閻魔堂ほか 小学生対象 (保護者同伴) 定員25人 要事前申込 参加無料
- ◆ミュージアム de ナイト in 芦峯寺 (立博が「地獄博物館」に変身!)
8月6日(土)・7日(日) 18:00~21:00 (入館は20:30まで)
展示館、教算坊、山岳集古未来館 要常設展・企画展観覧料
- ◆まんだらナイトウォーカー—光りと香りのページェント—
9月10日(土)・11日(日) 18:30~20:30 (入苑は20:00まで) まんだら遊苑 要観覧料
- ◆文化講演会「地蔵霊場としての立山」
10月15日(土) 14:00~16:00 講師:渡 浩一氏 (明治大学国際日本学部教授)
立山町元気交流ステーションみらいぶ 定員70人 (当日先着順) 聴講無料
- ◆もみじを愛でる会 (紅葉を見ながら立山曼荼羅の絵解き解説)
11月3日(木・祝)・6日(日) 11:00~11:40と14:00~14:40 教算坊 参加無料

「たてはく友の会」令和4年度会員募集中!

ご入会で、
立博をお得に
ご利用ください!

- ◎特典 ①全ての施設の無料観覧/②特別企画展の無料観覧/③立山博物館行事のご案内
④交流誌「たてはく」と「研究紀要」の無料配布/⑤図録やオリジナルグッズ等の割引
- ◎会費 一般会員 = 年額3,000円 / 賛助会員 (企業・団体等) = 年額20,000円 (一口)
- ◎期間 入会日から入会年度の3月31日まで (お申し込み時点から特典がご利用いただけます)
- ◎入会方法 当館受付窓口にて直接お申し込みいただくか、たてはく友の会事務局まで入会申込書をご請求のうえ、
郵便局で会費をお振り込みください。Tel.076-481-1216

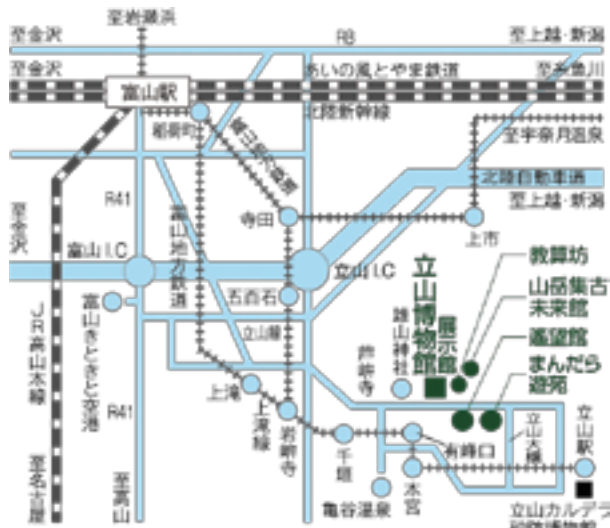
【おことわり】

本号に掲載する企画展等や各種行事につきましては、新型コロナウィルス感染症拡大防止やその他の事情により、タイトルや内容、募集方法等を変更するか、中止する可能性があります。その際はHPIにてお知らせいたしますが、詳しくは当館までお問い合わせください。

編集後記

まだまだ油断ならない世の中ですが、だんだん人の流れを取り戻そうとする動きが活発になってきましたね。今夏の企画展は、鉄道をとおして立山観光の歴史と変遷をたどります。当館屈指の“鉄ヲタ”学芸員による展示は、立山ファンのみならず鉄道ファンも必見! 感染症対策を充分にして、たくさんの方のご来館をお待ちしております。(坂)

案内図



- 最寄り駅
富山地方鉄道立山線千垣駅
下車徒歩(約2km)
※日曜を除き町営バス運行
「雄神社前」下車すぐ
- 自家用車で
JR富山駅から 約45分
立山駅(千寿ヶ原)から 約15分
富山インターチェンジから 約35分
立山インターチェンジから 約30分

立山博物館のホーム
ページはこちらから。



人間と自然のかかわり方を学ぶ

富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峯寺93-1
TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144

<https://www.pref.toyama.jp/1739/miryokukankou/bunka/bunkazai/home/index.html>

FacebookとTwitterあります!

立山博物館

